

505) どこへ帰るの？

結婚して10年以上もたつと、女房殿の顔を見るのがうっとうしいときが、しばしばある。そんな時、世の男性諸氏は酒で紛らすものなのだが、小生はあまり酒に強い方ではない。酒は嫌いではないが、すぐに酔ってしまって、所かまわず寝込んでしまうのである。最近、我輩は会社で新人教育みたいなことをしているのだが、新人を飲み連れて行ってもすぐに寝込んでしまって、夜の社会勉強をこっそり教えることができない。このため酒に強い男性生徒からはすっかり見放されて、一緒に飲んでくれるのはもっぱら女性陣だけである。ところがこの中に私好みの子がいて、最近彼女の家にもよく行っている。しかし断っておくが深い関係ではない。女房殿が恐いのと、そんな世の中の最先端を突っ走って、オフィスラブだの不倫をするほどの度胸も根性も甲斐性もない。そもそも彼女の家にも最初に行ったのも、寝込んでしまって担ぎ込まれたと言った方が適切なのである。そんな人畜無害なところが、彼女にもむしろ安心感を与えているようで、お互いに何となくいい関係が続いているらしい。それと彼女のマンションは、私の家と会社とのちょうど中間地点にあるところが、なんとも具合がいいのである。ところが先日も酒によって家に帰ると、そのままソファで一眠りしてしまい、目が覚めると、上着を着て玄関の方に行って、「さー帰らないと」と言ってしまったらしい。女房殿は、「アンタどこへ帰るの？」と言って私のことを連れ戻したと言うのだが、こっぴどく叱られて、ちょっとやばかった。今のところ単に寝惚けただけと言うことになっているのだが、うっすらと何か気づいているかも知れない。